

第1回合同連絡会

議事概要

日 時 令和6年6月6日（木）
14:00～16:30
場 所 県庁9階大会議室

1 開 会

2 挨拶

3 第1回実証事業研究連絡会

- (1) 開会
- (2) 委員長選出
委員互選により委員長に高岡委員選出
- (3) 挨拶
- (4) 委員紹介
- (5) 事業説明等
- (6) 協議・報告

4 令和6年度地域クラブ活動環境整備事業について

- (1) 事業説明
- (2) 情報交換

5 グループ協議

6 挨拶

7 閉会

※ホームページで公表しますが、発言者のお名前は公表しません。

※発言そのままではなく、発言要旨としてまとめております。

<議事概要>

- 事務局「資料P1～7」により3(1)(4)(5)について説明
- 実証事業実施7市町担当者「資料P8～22」により3(6)について説明
- 上記の説明を受けて、委員長がコメント
委員長 | 7市町の取組に共通することは次の3点である。

① 部活動を地域にスライドさせるのではなく、自治体内のスポーツ・文化芸術環境をよりよくしていくという発想を持っている。

○地域全体のスポーツ・文化芸術環境ガバナンスの体制構築

個別の地域クラブで活動する場合、指導者研修、謝金の支払い、会費の徴収等をワンストップで行う。あるいは、地域全体で新しい大きな総合型地域スポーツクラブのようなものを立ち上げなおして、地域のスポーツ・文化芸術団体を再構築する。

○既にある部活動の競技・分野以外の活動を地域で実施

地域で活動することで、部活動では選ばなかったものが地域では選べるようになる。

○柔軟で幅広い人材確保のアイデア

冒頭に事務局から説明があったとおり、指導者確保に向けた声かけの仕方を変える柔軟性を持つことができる。

活動場所が集約されることによって必要になる移動手段の確保、受益者負担が増えることによる経済的困窮世帯の生徒の参加敬遠、障害を持った生徒への配慮等、社会的弱者への支援体制も念頭に置かれている。

② 行政内の複数の部署が連携

政策的には、学校教育担当課、地域のスポーツ・文化芸術振興担当課の両課が絡むのは当然のことであるが、それ以外も関係してくる。

③ロードマップが描かれている

令和8年度にどのような姿を目指すのか、各年度に必要なタスクは何かを細かく書き出すことが必要である。事務局が提示した資料を自治体が埋めることができれば仕事としては成立する。

全体をとおして重要なことは大きな将来ビジョンが描けているかということである。どの自治体においてもロードマップをきちんと描けることは、将来的なイメージがあるからだと思うが、それを言語化することは大事である。

そのような意味で高梁市の取組は、将来ビジョンを見据えて、計画を大胆に練り直している。「中学生の休日の過ごし方改革」という表現は、分かりやすいキャッチコピーだ。

和気町は、地域クラブの大人を「指導者」とは言わない。高梁市は指導者謝金を初めから払わないという発想である。これらは、各自治体の将来ビジョンに基づいている。中学生のスポーツ・文化芸術環境に関わる大人は、「指導者」なのか「仲間」なのか、地域のスポーツ・文化芸術環境のデザインの根本に関わる問題である。

大きな将来ビジョンが描けないと、各年度の動きに結びつかない。そうい

う意味で各自治体のスポーツ・文化芸術環境は、どうあるべきか、どう変わらなければならないのかという、大きなビジョンをディスカッションする必要がある。

- 事務局 「資料P24～25」により地域移行支援アドバイザー派遣について説明
- 事務局 「資料P26～27」により地域クラブ活動環境整備事業について説明
- 4（2）はグループ協議
- 5はグループ協議